

平成30年度 薩摩川内市民まちづくり公社事業報告書

本公社は、これまでその設立目的に沿って市民の皆様の生涯学習の推進と福祉の向上に寄与する事業を実施して参りました。

平成30年度から指定管理受託施設に係る人件費について、運営補助金から指定管理料への移し替へと、これまでの精算方式が解除され、自立した運営が求められるようになり、薩摩川内市と連携を強化しながら、公共施設の管理運営に努めて参りました。

指定管理の協定及び契約に基づき適切に管理するとともに、管理受託施設の利活用及び利用者の利便を図るための諸事業を実施しました。

実施事業の概要は、次のとおりです。

I 公益目的事業

1 受託施設管理事業

平成30年度の受託施設管理事業につきましては、指定管理者制度等に基づき、薩摩川内市から管理受託する文化施設、社会体育施設等の公共施設の管理運営を実施しました。

川内文化ホール、入来文化ホール、川内歴史資料館、川内まごころ文学館、せんだい宇宙館、サンアリーナせんだい等の集客施設においては、施設の安全点検はもとより、消防・防災訓練を実施して緊急時の利用者の安全誘導等に心掛け、併せて、各種実務研修、普通救命講習会への参加、さらには薩摩川内警察署の協力のもと、防犯研修を実施し、利用者及び職員の安全対策について学びました。

公園等の施設管理については、安全で快適な利用を図るため、日常的に設備や遊具の点検を実施するとともに、施設の維持・修繕、清掃、花壇の管理、樹木剪定、芝刈り等を効率的に実施しました。

なお、抜本的な改修等が必要な管理施設については、市の主管課へ報告・協議を行い必要な対応に努めました。

また、各施設において利用者満足度調査等を実施し、利用者の意見等を踏まえながらよりよい施設の管理運営に努めて参りました。

平成30年度に実施したこれら受託施設の主な管理事業及び利用状況は、次のとおりです。

(1) 薩摩川内市川内文化ホール

ステージ、会議室関係の利用がやや減となりましたが、ホワイエは物販利用等が増加しました。利用件数は3,037件で前年比1.0%の減、利用者数は、124,871人で前年比3.9%の減となりました。

(2) 薩摩川内市入来文化ホール

公社の芸術文化振興事業として、北海道歌旅座による「昭和のうたコンサート」を開催いたしました。また文化ホールでの催物事業、別館の視聴覚室を中心に年間を通して利用がありました。

利用件数は540件で16.6%の増、利用者数は14,942人で0.2%の減となりました。

(3) 薩摩川内市川内歴史資料館

明治維新150周年に併せ、前年度に続き関連した展示として、トピック展示「西郷伝説と薩摩川内」、秋期には、特別展 平佐北郷家13代当主「北郷久信と明治維新～幕末・明治の薩摩川内～」、トピック展示「明治に活躍した北郷家の重臣たち」を開催しました。また、特別展に関連した講演会を開催し、年間を通して郷土と明治維新のつながりを紹介し、集客を図りました。

夏期には、終戦記念展示コーナー「資料から見る戦中・戦後の暮らし」を開催し、戦中の統制下や戦災を体験して生きた人々の暮らしを紹介しました。そのほか、歴史講座、資料館講座（工作教室）、出前講座等を実施し集客に努める一方、各事業の広報活動にも努めました。また、薩摩国分寺跡史跡公園、横岡古墳公園の園内巡回や樹木剪定、除草、施設等の美化に努めました。

入館者数は7,784人となり前年比18.4%の増となりました。

(4) 薩摩川内市川内まごころ文学館

明治維新150周年を迎えたことから、トピック展示「山本實彦旧蔵肥後直熊筆『西郷隆盛像（複製）』展示」や北海道150年記念と併せた有島記念館との合同パネル展、当館が顕彰する作家・里見弴の父・有島武に焦点をあてた特別企画展「有島武～偉大なる父の物語～展」（有島記念館合同企画）を開催しました。特別企画展は有島武が北郷久信の家臣だったことから、隣接する川内歴史資料館とも関連させて集客を図りました。

その他、里見弴生誕記念展示「里見弴の藝の世界」、次年度の元号変更に関連させて、トピック展示「里見弴の随筆『五代の民』－“皇統五代にわたる方々”との思い出－」を開催しました。

また、好評のまごころ文芸講座、名作シネマ上映会やシネマトーク、さらには、まごころ児童絵画展の開催や大寒忌コーナーを設けて集客に努めました。

入館者は10,212人で前年比10.7%の増となりました。

(5) 薩摩川内市寺山いこいの広場

施設内の設備や遊具などの安全管理に努めるとともに、シルバー人材センターを活用しながら、花壇の管理や公園内の草刈等を実施し、利用者に親しまれる公園づくりに努めました。また、寺山レストランやゴーカートとの連携を図り集客に努めました。

施設利用者数は130,650人で前年比11.0%の増となりました。

(6) 薩摩川内市せんだい宇宙館

寺山こどもの日フェスタ、宇宙館フェスタ、企画展「小惑星探査機はやぶさ2」、「火星大接近」などの受託事業を実施し、集客に努めました。

入館者数は11,813人となり前年比0.7%の増となりました。

(7) 各種公園緑地等の管理

各種公園緑地等については、設備、遊具、樹木、芝、雑草の状態等の点検を日常的に実施して、受託施設の維持・補修を実施しました。また公園の大木等については、年度別に計画的に本格的剪定を実施しました。更に、継続的管理が必要な施設については、従来どおりシルバー人材センターを活用しました。

(8) 体育施設の管理

体育施設の利用状況は、サンアリーナせんだいの利用実績が218,397人で前年比7.7%の増加となりました。参集規模として、九州圏内の大会が増加したことが一因です。

なお、総合運動公園全体での利用者数は、昨年度の陸上競技場トラック改修工事による利用制限が解除されたことで、418,042人の利用があり、前年比11.9%の増となりました。

また、御陵下公園施設、屋外運動場照明施設の利用実績は、御陵下公園野球場の改修工事で利用制限があったことと、屋外運動場照明施設の利用が年々減少傾向にあることから、68,787人、前年比4.1%の減となりました。

(9) 薩摩川内市立中央図書館の運営

薩摩川内市立中央図書館の土曜・日曜・祝日の全日及び平日17時から21時までの部分運営、貸出、返本受付などを実施しました。

平成30年度の図書館利用者数は、平日昼間が42,663人、土曜・休日が35,200人、夜間が21,453人、合計で99,316人となり、前年比1.1%の減となりました。

これら施設の管理運営のための直接経費として、484,663,167円を支出しました。

2 芸術文化・スポーツ振興事業

川内文化ホール等を活用した芸術文化振興事業を行い、市民への芸術・文化事業の鑑賞の機会を提供し市民文化の高揚を図りました。具体的な事業は以下のとおりです。

(ア) 北海道歌旅座「昭和のうたコンサート」

10月14日(日)、入来文化ホールにおいて、懐かしの昭和歌謡「昭和のうたコンサート」公演を開催しました。昭和世代に限らず多くの来場者でにぎわい、懐かしい昭和の名曲を、客席も一体となって歌う声が会場に響きわたり、盛況のう

ちに終了しました。

(入場者数は427人)

(イ) 海援隊 トーク&ライブ2019

2月11日(月)、武田鉄矢をリーダーとする「海援隊」によるトーク&ライブ公演を開催しました。代表曲である「贈る言葉」など、全11曲に、絶妙なトークを交えた公演は、多くの観客に笑い感動を与えて終了しました。

(入場者数は885人)

芸術文化振興事業費では、8,606,803円の事業経費に対し、4,396,600円の入場料収益に加えて、市から補助予定額6,000,000円の交付を受けていましたが、1,789,797円を精算返納しました。

3 いきいき生涯学習事業

8月19日(日)、川内文化ホールにおいて、音楽・ダンスに親しみ活動している幅広い年代のアマチュアの団体や個人を対象に、川内文化ホールステージでの発表機会を提供し、その育成と文化の振興に寄与することを目的に、「サマーミュージックフェスティバル in 薩摩川内」を開催しました。出演者は12組73人、入場者数は284人となりました。

また、9月24日(月・祝)にはサンアリーナせんだいにおいて、スポーツ振興を目的として「まちづくり公社杯ソフトバレーボール大会」を開催しました。

25チーム138名の参加がありました。なかでも、70歳以上の参加者が8名あり、生涯スポーツの振興を図ることができました。

その他、各管理施設等において、季節のお菓子作り教室、フラワーアレンジメント教室、薬膳茶講座、図書館講座等を実施しました。

以上、生涯学習関連の自主事業経費は、1,767,840円となりました。

4 花と緑のまちづくり事業

これまで実施してきた公共施設等の環境美化を目的とした花苗の無料配布については、平成30年度も引き続き休止としましたが、御陵下公園・泰平寺公園などで花壇やプランターの花苗の植栽、管理まで実施していただいたボランティア団体の活動を支援し、環境美化に努めました。

5 キラキラ寺山事業

寺山の各施設が連携しながら、寺山いこいの広場全体の利用拡大に努めました。せんだい宇宙館では、宇宙・天体に興味を持ってもらうため、市民星空観望会、流星

群観察会、夏休み科学工作等の催しを実施して学習、集客に努めました。

また、市教育委員会及び少年自然の家事業とも連携協力し、天文教室や市内の小学校等に出向いての出張観望会を実施しました。

6 サービス事業

受託施設への公衆電話の設置や各管理施設でのコピーサービスなど施設利用者の利便を図りました。

7 広報宣伝事業

公社の自主事業や管理施設での行事予定、また事業結果等について、公社広報誌「アクスタイム」、南日本新聞折り込みチラシ「南日本家庭メモ」の裏面活用による「アクスタイム情報」、公社ホームページ等による広報宣伝を実施しました。

また、薩摩川内市の広報紙「広報薩摩川内」、各種情報誌、新聞、テレビのほか、コミュニティラジオ局「FM さつませんだい」を活用し情報発信に努めました。

平成30年度は、公社を設立して20周年を迎え、記念事業の一環として「設立20周年記念誌」を発行しました。

8 まちづくり交流事業

ボランティア団体等の活動拠点として川内文化ホールに設置された、「まちづくり交流センター」を運営するとともに、公社ホームページ内に交流センター登録団体の紹介ページを設けてボランティア活動への参加を呼びかけました。

利用者数は延べ220人、前年比94.7%の増となりました。

II 収益事業

販売事業

施設利用者等の利便を図るため、サンアリーナせんだい売店経営ほか、せんだい宇宙館でのグッズ販売、管理施設に清涼飲料水等の自動販売機を設置運営し、その収益については公益目的事業を実施するための財源として活用しました。

自動販売機の設置管理事業・売店事業では、13,987,865円の収益に対して経費が11,504,155円となり2,483,710円の黒字となっています。

Ⅲ 事務局

事務局の管理運営

事務局の運営については、川内文化ホール内に事務所を置き、本公社の事業活動の要として、その円滑な実施のための事務を執行いたしました。

終わりに

本公社では、これまで生涯学習・芸術文化・スポーツ振興等に係る公益目的事業を推進するため、市と連携しながら市民の皆様へ生涯学習の機会や質の高い芸術文化・スポーツに触れる機会を提供するとともに、施設の利活用を図って参りました。

今後も市民のニーズへの積極的な対応とともに、「安全・安心・快適」なサービスを提供し、更に市民の皆様にご喜ばれる事業を実施するなど市民福祉の向上に努めて参ります。